

# 令和3年度病害虫発生予察情報 予報第2号（5月）

令和3年5月31日  
発表：福島県病害虫防除所

## 1 普通作物

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲	いもち病 (葉いもち)	全 域	平年並	平年並	田植時期は、平年並と予想される。 近年、置苗での発病が少ない(-)。 天候予報(5月27日発表1か月予報)によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は多いと予想されている(+).	補植用置苗は本病の伝染源となるため、速やかに処分する。 窒素肥料の多用を避ける。
	イネドロオ イムシ	全 域	平年並	平年並	有効積算温度による発生予測では幼虫のふ化盛期は平年並と予想される。 天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている(-)。 近年、中通りで発生程度の高いほ場が散見される(+).	発生が目立つ場合は薬剤防除を行う(要防除水準:加害盛期に3~4齢幼虫が10頭/株以上寄生)。 移植が遅れた場合は、被害が大きくなる傾向があるので注意する。
	イネヒメハ モグリバエ	全 域	—	やや少ない	天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている(-)。	深水管理や直播栽培では被害が発生しやすいので注意する。
	イネミズゾ ウムシ	中通り 会 津  浜通り	—	平年並  やや多い	<b>5月中旬の調査では、発生ほ場割合(発生程度「少」以上)が浜通りで平年より高かった(+)</b> 。	<b>成虫の寄生が、100株当たり40頭以上確認される場合や、水田内のほぼ全葉に食害が確認される場合は水面施用剤を散布する。</b>
	イナゴ類	全 域	—	平年並	近年、発生ほ場割合は平年並であるが、中通りで発生の多いほ場が散見される(±)。	例年発生が多いほ場では、6月中旬~7月上旬にふ化幼虫を対象に薬剤散布を行う。
麦 類	赤かび病	全 域	—	やや多い	天候予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は多いと予想されている(+).	発病した場合は刈り分けを行うなど、被害粒の混入を防ぐ。また、収穫後は速やかに乾燥・調製を行う。
	うどんこ病	全 域	—	平年並	5月中旬の調査では、平年並に各地方とも発生は確認されなかった(±)。	薬剤防除に当たっては収穫前日数に注意する。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、(-) は少発要因、(±) は平年並要因であることを示す。

## 2 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	斑点落葉病	全 域	—	平年並	5月下旬の新梢葉での発生ほ場割合は平年並だった(±)。	
	腐らん病	全 域	—	平年並	5月下旬の発生ほ場割合は平年並だった(±)。	枝腐らんは見つけしだい健全部5cm以上含めて切り取る。 胴腐らんは見つけしだい周囲の健全部まで5cm広く削り取り、トップジンMペーストの原液を塗布する。
	キンモンホソガ	全 域	—	平年並	中通りの一部調査ほ場で5月下旬に新梢葉の被害が確認されたが、会津では平年同様に被害は確認されなかった(±)。	
	アブラムシ類	全 域	—	やや多い	5月下旬の新梢寄生の発生ほ場割合はやや高かった(+)	発生が多い園地では、ネオニコチノイド剤を散布する。ただし、本剤は連用しないこと。
	ハダニ類	全 域	—	平年並	5月下旬の新梢葉寄生の発生ほ場割合は平年並だった(±)。	要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、殺ダニ剤を散布する。
モモ	灰星病	中通り	—	平年並	4月中旬～5月上旬の花腐れの発生は平年同様に確認されなかった(±)。	本病による枝枯れは見つけしだいせん除し、園外に持ち出すなど適切に処分する。
	せん孔細菌病	中通り	—	やや多い	5月下旬の春型枝病斑の発生ほ場割合は平年並だった(±)。 5月下旬の新梢葉での発生ほ場割合は平年よりやや高く、果実での発生も見られた(+)	罹病部(枝・葉・果実)のせん除を徹底する。 薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意する。 晩生種や黄肉種などで本病の発生が多い場合は、仕上げ摘果後、直ちに袋かけを実施する。 (令和3年5月31日付け防除情報参照)
	モモハモグリガ(第1世代成虫)	中通り	—	平年並	5月下旬の新梢葉被害の発生ほ場割合は平年並だった(±)。	第2世代幼虫発生初期に防除を実施し、次世代の密度低下を図る。
	アブラムシ類	中通り	—	平年並	5月下旬の新梢寄生は確認されず、発生ほ場割合は平年並だった(±)	
	ハダニ類	中通り	—	平年並	5月下旬の新梢葉寄生は平年同様に確認されなかった(±)。	要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、殺ダニ剤を散布する。

ナシ	黒星病	全域	—	平年並	5月下旬の果そうでの発生ほ場割合は平年並だった(±)。 5月下旬の新梢葉での発生は確認されず、発生ほ場割合は平年並だった(±)。	果そう基部病斑や発病葉・果実は、徹底して除去し、園外に持ち出すなど適切に処分する。 (令和3年5月31日付け防除情報参照)
	アブラムシ類	全域	—	平年並	5月下旬の新梢寄生は確認されず、発生ほ場割合は平年並だった(±)	
	ハダニ類	全域	—	平年並	5月下旬の新梢葉寄生は確認されず、発生ほ場割合は平年並だった(±)。	要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、殺ダニ剤を散布する。
果樹共通	カメムシ類	全域	—	平年並	調査ほ場への飛来や果実被害(モモ)は平年同様に確認されなかった(±)。 指標植物(サクラ)への飛来数は平年並だった(±)。	越冬世代成虫による加害は幼果期から始まるため、特に山沿いの園地ではよく観察し、飛来を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

### 3 野菜・花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト(被覆栽培)	灰色かび病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並だった(±)。	発病葉は摘除し、防除を徹底する。 多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並だった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 施設開口部をネット被覆していない場合、有翅虫の飛込について注意する。
	コナジラミ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並だった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
キク(露地栽培)	白さび病	全域	—	やや多い	育苗床からの持ち込みによると考えられる発生が見られたが、発生ほ場割合は平年並であった(±)。 天候予報によると、向こう1か月の降水量は多くなると予想されている(+)	<b>品種により発病に差があるので、発病しやすい品種では防除を徹底する。</b> 梅雨入りが早まる可能性があり、長雨が続くと発病しやすくなるので、予防散布に努める。
	アブラムシ類	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は平年よりやや低かった(-)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。

	ハダニ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並だった(±)。	低密度時から防除を実施する。 抵抗性の発達が懸念されるため、防除薬剤の選択に注意する。
	アザミウマ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並だった(±)。	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を徹底する。
	ハモグリバエ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並だった(±)。	上位葉での発生に注意し、低密度時から防除を実施する。
リンドウ ※過去6年間の平均値と比較	葉枯病	全 域	—	例年並	発生ほ場割合は、平年並だった(±)。	多湿条件で発生が多くなるので、予防散布に努める。
	ハダニ類	全 域	—	例年並	発生ほ場割合は、平年並だった(±)。	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。
	リンドウホソハマキ	全 域	—	例年並	発生ほ場割合は、平年並だった(±)。	春先の高温の影響により、被害拡大が例年より早まる可能性がある。ほ場をよく観察し、発生が多い場合は速やかに防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

夏秋トマト(被覆栽培)	<p><b>■タバココナジラミと黄化葉巻病</b></p> <p>2006年にタバココナジラミ・バイオタイプQの発生が本県のトマトで確認されています。現在までに、中通り、会津南部、浜通りで本種の発生が確認され、また、本種が媒介するトマト黄化葉巻病ウイルス(TYLCV)も中通り北部、会津南部、浜通り南部で確認されています。</p> <p>本年も黄化葉巻病の発生が中通り南部で確認されています。本病はウイルス病であり、タバココナジラミの媒介により感染します。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染、また、オンシツコナジラミ等による虫媒感染はしないため、媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底することが重要です。</p> <p>本病の発生を認めた場合、侵入・脱出防止を心がけ、ほ場内での発生密度が高くなるように発生初期から適切な防除を行ってください。</p> <p>また、未発生地域においても、購入苗等により持ち込むおそれがありますので注意が必要です。</p> <p>病害虫防除所HPに掲載している病害虫防除情報「注意喚起 黄化葉巻病(TYLCV)のまん延防止対策」、病害虫ライブラリー野菜花き類「コナジラミ類」もご覧ください。</p>
キク(露地栽培)	<p><b>■べと病</b></p> <p>育苗床～本ば定植株で発病が確認されています。下位葉からの発病が多く葉裏に白色～淡黄褐色の菌叢を生じます。やがて発病部位は枯死し、上位葉に拡がると株が枯死する場合があります。湿度が高い条件で発病しやすくなるのでほ場の排水をよくするとともに、発病葉を認めた場合には直ちに除去し、ほ場外に持ち出して土中に埋没するなど適切に処分してください。</p>
野菜・花き共通	<p><b>■オオタバコガ</b></p> <p>フェロモントラップでの誘殺が中通り北部、南部、浜通り北部で確認されています。浜通り北部では5月1半旬から誘殺が確認され、発生時期がやや早くなっています。本種はトマトやキクの新芽や果実の内部に潜り込んで食害します。現時点でフェロモントラップの誘殺数は少なく経過していますが、特に露地栽培や防虫ネット未展張の施設で被害が予測されるので、生長点付近をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行ってください。</p>